

基礎情報

会長：一條秀憲（東京大学大学院薬学系研究科）
設立年：1925年(大正14年) 会員数：約7,600名
ノーベル賞受賞者を数々輩出している学会です



【大会】全国レベルの大会を年に1回開催し、最先端の学術の進歩を会員間で共有するとともに、意見交換の場を提供しています。また、毎回特別講演として国内外に**ノーベル賞受賞者**を含む著名な研究者を招聘しています。そのほかプログラムは**シンポジウム**、**ポスター・口頭発表**、**ランチョンセミナー**、**受賞講演**、**高校生発表**など実に多彩です。また、最近の6年間ではアーカイブとして特別講演を学会HPで**どなたでも**閲覧いただけます。



【海外留学助成】2016年から「早石修記念海外留学助成」を設置し、若手研究者に思う存分海外で研究していただきたい思いから、毎年8名に支援（500万円/1名）を行っています。帰国後はシンポジウムの企画などを行っていただき、学会へ大いに貢献いただいています。

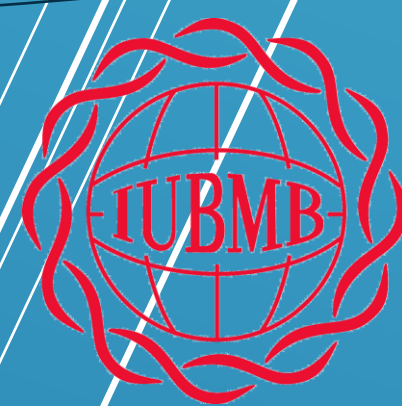
2023年度は創立98年を迎えます 基礎医学・生命科学の発展に貢献しています



【懸賞制度】懸賞制度も充実しています。40歳未満の優れた会員を表彰する奨励賞は1955年に設立された伝統ある賞で、受賞者の多くはその後生命科学分野を代表する研究者になっています。まさに登竜門と言えるでしょう。



【学会誌】2つの学会誌を発行しています。ひとつは和文誌「生化学」です。最先端の研究に関する多くの総説が掲載されていますので、新しい分野について学ぶには最適です。大変読みやすいオンライン版も、タブレットなどで閲覧できます。一方の英文誌「The Journal of Biochemistry」は非常に歴史ある生化学の国際誌で、質の高い論文が掲載されています。



【国際交流】日本生化学会はIUBMB (International Union of Biochemistry and Molecular Biology)ならびにFAOBMB (Federation of Asian and Oceania of Biochemists and Molecular Biologists) の構成学会であり、日本学術会議と連携しながら国際活動を行っています。2006年にはノーベル賞受賞者の**本庶佑教授**が京都でIUBMB/FAOBMB/日本学術会議等との合同で国際生化学・分子生物学会議を開催しています。